

相手の伝えたいことを正確にとらえること

11月末に読んだネットニュースの記事で気になったことがありました。それは、日本のプロ野球で、そのシーズンに最も活躍した「先発完投型」の投手に贈られる「沢村賞」に関する記事です。話を進める前に、沢村賞や野球について補足説明をしておきます。

「完投」「継投」

先発投手が1試合(9回)を一人で投げ切ることを「完投」という(さらに0点に抑えることを「完封」という)。かつては「先発完投型」の投手が多かった。1試合を1人で投げ切ると約120～135球を投げる。

現在は先発投手が5～7回まで投げ、その次を中継ぎ投手、最終回を抑え投手が投げるという「継投」をすることが多く、「投手の分業制」が進んでいると言われている。これは「投手の投げすぎによる怪我を防ぐ」という考え方が広まってきたことが1つの要因となっており、良い投球をしている投手でも「1試合100球程度」で次の投手に交代することが多い。また、現在は投手の投球スピードの向上や多彩な変化球を投げることによる「1球あたりの負荷」がかつてよりも増していると言われている。

沢村賞

プロ野球創生期に巨人のエースとして活躍し、太平洋戦争で戦死した大投手、沢村栄治の荣誉と功績をたたえ、1947年に制定。選考対象は先発完投型の投手で、選考基準は(1)15勝以上(2)150奪三振以上(3)完投10試合以上(4)防御率2.50以下(5)投球回数200(6)登板25試合以上(7)勝率6割以上の7項目。すべての項目をクリアしないと受賞できないというわけではない(2000年以降、21人の受賞者がいるが、7項目全てをクリアして受賞した選手は5人しかいない)。

では、次の記事(一部抜粋)を読んでみてください。

ダルビッシュがもの申す「今の時代にあった評価を」沢村賞選考委員の苦言に反応(一部抜粋)

パドレスのダルビッシュ有投手が22日、ツイッターを更新。沢村賞の選考委員から現役投手に苦言が出たことについて、意見をつづった。

ダルビッシュは選考委員から「レベルが低すぎる」という声が出た記事を添付。これに反応し、「時代が変わってきている分、起用法も変わりますから数字も変わりますよね。今の時代にあった評価をしてあげるべきでは？」と指摘した。

11/23(火) 12:44 配信 デイリースポーツ (<https://news.yahoo.co.jp/articles/edde643204df66aab5cec9aaf526ade0704c3103>)

みなさんは、この記事でダルビッシュ投手が言いたいことは読み取れましたか？

ダルビッシュ投手の意見は、現在は投手を評価する様々なデータがとられており、それらを見ればレベルが低いはいえないのではないかという、選考委員が「投手のレベル」に対して低い評価をしていることについての意見だと思います(ダルビッシュ投手のツイッター上の投稿で、そのように説明がされていました)。

このネットニュースの記事に対して多くのコメントが寄せられていました。その中に「沢村賞という権威ある賞の選考基準は変える必要はない」というコメントが多くみられました。ダルビッシュ投手は「沢村賞の選考基準を変えたほうがいい」とは言っていないのに、なぜ「選考基準を変える」という話題が出てくるのでしょうか。もちろん、コメント欄上では記事の内容に関連したことが投稿され、コメント欄上で議論されるということはあると思います。一方では、「これは選考基準を変えるべきと主張している」と読み取り方を間違えて投稿されたコメントから広がったとも考えられます。実際、勘違いしているであろう投稿も多くありました。

ただ、「今の時代にあった評価をする」というのが、「投手のレベルが低すぎる」という評価についてなのか、「選考基準」についてなのかは、ダルビッシュ投手の意見の真意を予想しないとわからない部分があります。私はこの記事とコメント欄を見て、少ない文字情報から相手の伝えたいことを読み取る難しさと、自分が伝えたいことを伝える難しさを感じました。

(次回に続く・・・)

学年の先生のつぶやき

～今週は宮澤先生より～

スキー教室の準備が着々と進んでいますね。私は大学時代、長野県松本市に住んでいた
のでスノーボードは毎年友達と行っていました。（スキーは1回しかやったことがありませんが
…。）とは言っても松本は驚くほど雪が降らないので、雪が降るとみんな大はしゃぎ！講義棟の
前に巨大な雪だるまを作ったり雪にダイブしたり、そり滑りをしたり雪に食品用乾燥剤を入れて
実験をしたり。私にとって雪はそんな青春の楽しい思い出が詰まったものです。

スキー教室で向かう長野県上田市は、「日ノ本一の兵」とも呼ばれた将軍真田幸村（信繁）の
本拠地であったことから有名です。そして大河ドラマ「真田丸」は、そんな真田氏を主人公にし
たドラマで2016年1月～12月に渡って放送されました。2016年、私は大学一年生で、
よさこいを踊るサークルに入っていました。この年に「真田幸村の勇姿を演舞にしたい」という
ことで真田氏を題材とした作品を作りました。武士らしい踊りや衣装、曲、表情などを考えて作
り、総勢100人で汗を流しながらよさこいを踊りました。街中を踊り歩くパレードを何連続も
やったり、テレビ取材もある大舞台で踊ったりもしました。夏に名古屋で開催された「日本ど真
ん中祭り」では全国2位、春に浜松で開催された「浜松がんこ祭り」では学生1位を獲得しまし
た。上田の地に足を踏み入れるということはそんな思い出もよみがえります。ぜひみなさんも
真田氏について調べてみたり、よさこいを見てみてくださいね。

<来週の予定>

日	曜	給食	1	2	3	4	5	6	学校行事等
13	月	○	総	○	○	○	○	○	生徒朝会
14	火	○	○	○	○	○	○	○	
15	水	○	○	○	○	○	道	一	
16	木	○	○	○	○	○	○	総	12月避難訓練
17	金	○	○	○	○	○	○	総	一斉・中央委員会
18	土								

12/13(月) ①総合 スキー教室事前活動 係会①

宿舍班内の係分担は「室長」「保健美化」「食事」「入浴」「レク」です。
各宿舍班の係生徒全員で集まり、自分が担当する係の仕事内容等について
確認をします。

15(水) ⑤道徳「どうせ無理という言葉に負けない」

北海道でロケット開発をしている植松努さんのお話から、夢をあきらめない
ことの大切さについて考えます。

16(木) ⑥総合 スキー教室事前活動

先週、実行委員会から提案されたきまり案についての検討を各クラスで行い
ました。そこで出た意見を踏まえて、実行委員会から決まったきまりの連絡が
あります。

12月避難訓練

今回は火災を想定して避難訓練を行います。

17(金) ⑥一斉委員会・中央委員会

後期2回目の活動です。各種委員会の活動内容等の案に対する質問・意見・要
望について、返答の検討をします。